

注3

大学番号：188

[令和2年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

届出

同朋大学大学院 人間学研究科 仏教人間学専攻 (M)

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人同朋学園
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 事務部

職名・氏名 課長補佐 タケタニ 竹谷 シンゴ 慎吾

電話番号 052-411-1114

(夜間) -

F A X 052-411-0333

e-mail gakumu@doho.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

人間学研究科

<仏教人間学専攻 (M) >	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	28
8. (添付資料) 同朋大学大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会規程 . . .	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人同朋学園

(2) 大学名

同朋大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒453-8540

愛知県名古屋市中村区稲葉地町7-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コウムラ カズヒロ) 甲村 和博 (平成24年3月)		
学長	(マツダ マサヒサ) 松田 正久 (平成30年5月)		
研究科長	(メグロ タツヤ) 目黒 達哉 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
人間学研究科 仏教人間学専攻 修士(文学) 修士(人間福祉) 修士(心理学)	文学関係	2年	13人		26人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員									13		0.69倍	0.69倍	
志願者数									19				
受験者数									19				
合格者数									10				
B 入学者数									9				
入学定員超過率 B/A										0.69			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次									9 [-]	[]	
2年次											
3年次											
4年次											
計									9 [-] (-)		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	9 人	0 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要 - ①

<人間学研究科仏教人間学専攻(M) (仏教文化分野)>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究基礎科目	仏教人間学研究Ⅰ	1前	2			2						
	仏教人間学研究Ⅱ	1後	2			2	2					
	小計(2科目)	—	4	0	0	2	2	0	0	0	0	0
研究基礎科目	真宗学研究	1前		2			1					
	仏教学研究	1後		2		1						
	小計(2科目)	—	0	4	0	1	1	0	0	0	0	0
研究発展科目	仏教史研究	1前		2		1						
	日本文化史研究	1後		2		1						
	仏教文学研究	1前		2		1						
	典籍文化研究	1後		2		1						
	宗教学研究	1前		2								1
	世界宗教文化研究	1後		2								1
	キリスト教神学研究	1後		2								1
小計(7科目)	—	0	14	0	2	0	0	0	0	0	3	
隣接複合科目	仏教社会福祉研究	1前		2		1						
	仏教カウンセリング	1後		2		1						
	福祉・心理総合支援演習	1後		2		1	1	1				
	生命倫理学研究	1前		2								1
	教育学研究	1前		2			1					
	教育哲学研究	1後		2			1					
	保育心理研究	1後		2		1						
	保育心理事例研究	2前		1		1						
	海外文化研修	1後		2		1						
	小計(9科目)	—	0	17	0	4	3	1	0	0	0	1
研究専門科目	実践仏教	1前		2								1
	真宗学特殊研究	1前		2			1					
	仏教学特殊研究	1後		2		1						
	仏教フィールドワーク	1後		2		1						
	真宗文化特論	1前		2		1						
小計(5科目)	—	0	10	0	2	1	0	0	0	0	1	
研究指導	特殊演習Ⅰ	1前	2			1						
	特殊演習Ⅱ	1前	2			1						
	特殊演習Ⅲ	2後	2			1						
	特殊演習Ⅳ	2後	2			1						
	小計(4科目)	—	8	0	0	3	1	0	0	0	0	0
論文	修士論文	2通				3	1					
	小計(1科目)	—	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0
合計(30科目)	—	12	45	0	7	3	1	0	0	0	5	

卒業要件及び履修方法

大学院に2年在学し、32単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文を提出し、審査に合格すること。履修方法は「研究基礎科目」は4単位必修、「研究基礎科目」4単位必修、「研究発展科目」「隣接複合科目」から10単位以上、「研究専門科目」6単位以上、「研究指導(特殊演習Ⅰ～Ⅳ)」8単位の合計32単位以上修得すること。

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究基礎科目	仏教人間学研究Ⅰ	1前	2			2						
	仏教人間学研究Ⅱ	1後	2			2						
	小計(2科目)	—	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0
研究基礎科目	真宗学研究	1前		2								1
	仏教学研究	1後		2		1						
	小計(2科目)	—	0	4	0	1						
研究発展科目	仏教史研究	1前		2		1						
	日本文化史研究(未開講)	1後		2		1						
	仏教文学研究	1前		2		1						
	典籍文化研究(未開講)	1後		2		1						
	宗教学研究	1前		2								1
	世界宗教文化研究(未開講)	1後		2								1
	キリスト教神学研究	1後		2								1
小計(7科目)	—	0	14	0	3	0	0	0	0	0	1	
隣接複合科目	仏教社会福祉研究	1前		2		1						1
	仏教カウンセリング	1後		2		1						
	福祉・心理総合支援演習	1後		2		1	1					
	生命倫理学研究	1前		2								1
	教育学研究	1前		2			1					
	教育哲学研究	1後		2			1					
	保育心理研究	1後		2		1						
	保育心理事例研究	2前		1		1						
	海外文化研修	1後		2		1						
小計(9科目)	—	0	17	0	3	1	0	0	0	0	2	
研究専門科目	実践仏教	1前		2								1
	真宗学特殊研究(未開講)	1前		2								1
	仏教学特殊研究	1後		2		1						
	仏教フィールドワーク(未開講)	1後		2		1						
	真宗文化特論	1前		2		1						
小計(5科目)	—	0	10	0	2	0	0	0	0	0	2	
研究指導	特殊演習Ⅰ	1前	2					3				
	特殊演習Ⅱ	1前	2					3				
	特殊演習Ⅲ	2後	2					3				
	特殊演習Ⅳ	2後	2					3				
	小計(4科目)	—	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0
論文	修士論文	2通						5				
	小計(1科目)	—	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
合計(30科目)	—	12	45	0	7	1	0	0	0	0	4	

卒業要件及び履修方法

大学院に2年在学し、32単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文を提出し、審査に合格すること。履修方法は「研究基礎科目」は4単位必修、「研究基礎科目」4単位必修、「研究発展科目」「隣接複合科目」から10単位以上、「研究専門科目」6単位以上、「研究指導(特殊演習Ⅰ～Ⅳ)」8単位の合計32単位以上修得すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、「仏教人間学研究Ⅱ」の専任教員等の配置のうち「准教授2」を削除。 ・科目担当の専任教員が就任辞退したことにより、「真宗学研究」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任・兼任1」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退したことにより、「仏教社会福祉研究」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。 ・専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、「福祉・心理総合支援演習」の専任教員等の配置のうち「准教授1」及び「講師1」を削除。 ・科目担当の専任教員が就任辞退したことにより、「真宗学特殊研究」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任・兼任1」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退及びに数字の訂正により、「特殊演習Ⅰ～Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退及びに数字の訂正により、「修士論文」の専任教員等の配置を「教授3」、「准教授1」から「教授4」に変更。
--

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	24 科目	0 科目	30 科目	6 科目 []	24 科目 []	0 科目 []	30 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

2 授業科目の概要 - ②

<人間学研究科仏教人間学専攻（M）（人間福祉分野）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究基盤科目	仏教人間学研究Ⅰ	1前	2			2						
	仏教人間学研究Ⅱ	1後		2		2	2					
	小計(2科目)	—	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0
研究基礎科目	福祉研究法	1前	2				1	1				
	社会福祉政策論研究	1後		2			1					
	社会福祉方法論研究	1前		2								1
	小計(3科目)	—	2	4	0	1	1	1	0	0	0	1
研究発展科目	児童福祉臨床研究	1前		2		1						
	障害者福祉研究	1後		2								1
	ソーシャルケア研究	1前		2				1				
	精神保健福祉研究	1後		2								1
	精神医学研究	1前		2		1						
	レジデンシャルソーシャルワーク研究	1後		2				1				
	医療福祉研究	1前		2								1
	保育学研究	1後		2								1
小計(8科目)	—	0	16	0	2	0	1	0	0	0	3	
隣接複合科目	仏教社会福祉研究	1前		2		1						
	仏教カウンセリング	1後		2		1						
	福祉・心理総合支援演習	1後		2		1	1	1				
	生命倫理学研究	1前		2								1
	教育学研究	1前		2			1					
	教育哲学研究	1後		2			1					
	保育心理研究	1後		2		1						
	保育心理事例研究	2前		1		1						
	海外文化研修	1後		2		1						
小計(9科目)	—	0	17	0	4	2	1	0	0	0	1	
研究専門科目	地域福祉研究	1前		2		1						
	比較福祉研究	1前		2								1
	地域子育て支援研究	1後		2		1						
	アドミニストレーション研究	1前		2				1				
	クオリティマネジメント研究	1前		2					1			1
	スーパービジョン研究	1後		2				1				
	ストレスマネジメント研究	1前		2			1					
	サクセスフル・エイジング研究	2前		2								1
	比較幼児教育研究	2前		2								1
小計(9科目)	—	0	18	0	2	1	1	0	0	0	4	
研究指導	特殊演習Ⅰ	1前	2			4	1	1				
	特殊演習Ⅱ	1前	2			4	1	1				
	特殊演習Ⅲ	2後	2			4	1	1				
	特殊演習Ⅳ	2後	2			4	1	1				
	小計(4科目)	—	8	0	0	4	1	1	0	0	0	0
論文	修士論文	2通				4	1	1				
	小計(1科目)	—	0	0	0	4	1	1	0	0	0	0
合計(36科目)	—	12	57	0	7	3	1	0	0	0	6	
卒業要件及び履修方法												
大学院に2年在学し、30単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文を提出し、審査に合格すること。履修方法は「研究基盤科目」は2単位必修、「研究基礎科目」から4単位以上、「研究発展科目」「隣接複合科目」「研究専門科目」から16単位以上、「研究指導(特殊演習Ⅰ～Ⅳ)」8単位の合計30単位以上修得すること。												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究基盤科目	仏教人間学研究Ⅰ	1前	2			2						
	仏教人間学研究Ⅱ	1後		2		2						
	小計(2科目)	—	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
研究基礎科目	福祉研究法	1前	2				1					
	社会福祉政策論研究	1後		2			1					
	社会福祉方法論研究	1前		2								1
	小計(3科目)	—	2	4	0	1	1					1
研究発展科目	児童福祉臨床研究	1前		2		1						
	障害者福祉研究	1後		2								1
	ソーシャルケア研究(未開講)	1前		2					1			
	精神保健福祉研究	1後		2								1
	精神医学研究	1前		2		1						
	レジデンシャルソーシャルワーク研究	1後		2				1				
	医療福祉研究(未開講)	1前		2						1		
	保育学研究	1後		2		1						
小計(8科目)	—	0	16	0	3	1	1	0	0	0	3	
隣接複合科目	仏教社会福祉研究	1前		2		1						1
	仏教カウンセリング	1後		2		1						
	福祉・心理総合支援演習	1後		2		1						
	生命倫理学研究	1前		2								1
	教育学研究	1前		2				1				
	教育哲学研究	1後		2				1				
	保育心理研究	1後		2		1						
	保育心理事例研究	2前		1		1						
	海外文化研修	1後		2		1						
小計(9科目)	—	0	17	0	3	1	0	0	0	0	2	
研究専門科目	地域福祉研究	1前		2		1						
	比較福祉研究	1前		2								1
	地域子育て支援研究	1後		2		1						
	アドミニストレーション研究(未開講)	1前		2					1			
	クオリティマネジメント研究	1前		2								1
	スーパービジョン研究	1後		2					1			
	ストレスマネジメント研究	1前		2			1					
	サクセスフル・エイジング研究(未開講)	2前		2								1
	比較幼児教育研究(未開講)	2前		2								1
小計(9科目)	—	0	18	0	2	2	0	0	0	0	1	
研究指導	特殊演習Ⅰ	1前	2			3	2					
	特殊演習Ⅱ	1前	2			3	2					
	特殊演習Ⅲ	2後	2			2	2					
	特殊演習Ⅳ	2後	2			2	2					
	小計(4科目)	—	8	0	0	3	2	0	0	0	0	0
論文	修士論文	2通				3	2					
	小計(1科目)	—	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0
合計(36科目)	—	12	57	0	8	3	1	0	0	0	7	
卒業要件及び履修方法												
大学院に2年在学し、30単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文を提出し、審査に合格すること。履修方法は「研究基盤科目」は2単位必修、「研究基礎科目」から4単位以上、「研究発展科目」「隣接複合科目」「研究専門科目」から16単位以上、「研究指導(特殊演習Ⅰ～Ⅳ)」8単位の合計30単位以上修得すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。

- ・ 1 ページ目には認可時又は届出時と報告年度 2 つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度（平成 30 年度開設であれば平成 29 年度）の表は適宜削除してください。（2 つの表が 1 ページに表示されるようにしてください。）
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ② 授業科目表に関する変更内容

【令和 2 年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、「仏教人間学研究Ⅱ」の専任教員等の配置のうち「准教授 2」を削除。 ・ 専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったこと及び専任教員の職位変更（講師→准教授）したことにより、「福祉研究法」の専任教員等の配置を「准教授 1」、「講師 1」から「准教授 1」に変更。 ・ 専任教員の職位変更（講師→准教授）したことにより、「ソーシャルケア研究」、「レジデンシャルソーシャルワーク研究」、「アドミニストレーション研究」及び「スーパービジョン研究」の専任教員等の配置を「講師 1」から「准教授 1」に変更。 ・ 新たに専任教員を採用したことにより、「保育学研究」の専任教員等の配置を「兼任・兼任 1」から「教授 1」に変更。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目担当の専任教員が就任辞退したことにより、「仏教社会福祉研究」の専任教員等の配置を「教授 1」から「兼任・兼任 1」に変更。 ・ 専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、「福祉・心理総合支援演習」の専任教員等の配置のうち「准教授 1」及び「講師 1」を削除。 ・ 担当教員の追加、専任教員の職位変更（講師→准教授）したこと及び数字の訂正により、「特殊演習Ⅰ、Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授 4」、「准教授 1」、「講師 1」から「教授 3」、「准教授 2」に変更。 ・ 担当教員の追加、専任教員の職位変更（講師→准教授）したこと及び数字の訂正により、「特殊演習Ⅲ、Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授 4」、「准教授 1」、「講師 1」から「教授 2」、「准教授 2」に変更。 ・ 担当教員の追加、専任教員の職位変更（講師→准教授）したこと及び数字の訂正により、「修士論文」の専任教員等の配置を「教授 4」、「准教授 1」、「講師 1」から「教授 2」、「准教授 2」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成 30 年度開設であれば平成 29 年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	30 科目	0 科目	36 科目	6 科目	30 科目	0 科目	36 科目	
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1 科目減の場合：△ 1）

2 授業科目の概要 - ③

<人間学研究科仏教人間学専攻 (M) (臨床心理分野) >

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

Table showing course details for the current year (認可時又は届出時). Columns include subject name, semester, credits, and faculty roles. Total credits are 22.

【令和2年度】

Table showing course details for the Heisei 24 fiscal year (令和2年度). Columns include subject name, semester, credits, and faculty roles. Total credits are 22.

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、

「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、「仏教人間学研究Ⅱ」の専任教員等の配置のうち「准教授2」を削除。 ・専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったこと及び専任教員の職位変更（講師→准教授）の理由により、「福祉研究法」の専任教員等の配置を「准教授1」、「講師1」から「准教授1」に変更。 ・専任教員の職位変更（講師→准教授）したことにより、「ソーシャルケア研究」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退したことにより、「仏教社会福祉研究」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。 ・専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、「福祉・心理総合支援演習」の専任教員等の配置のうち「准教授1」及び「講師1」を削除。 ・専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、「臨床心理学特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退したことにより、「臨床心理面接特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。 ・専任教員の就任辞退に伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、「心理学研究法特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退したことにより、「発達心理学特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退したことにより、「教育心理学特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退とそれに伴う担当科目の調整、見直しをおこなったことにより、及びに数字の訂正により、「心理学特殊演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授4」、「准教授1」から「教授3」、「准教授2」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退及びに数字の訂正により、「心理学特殊演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授4」、「准教授1」から「教授2」、「准教授2」に変更。 ・科目担当の専任教員が就任辞退及びに数字の訂正により、「修士論文」の専任教員等の配置を「教授4」、「准教授1」から「教授3」、「准教授2」に変更。
--

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
13 科目	35 科目	0 科目	48 科目	13 科目 []	35 科目 []	0 科目 []	48 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	日本文化史研究	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。
2	典籍文化研究	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。
3	世界宗教文化研究	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。
4	真宗学特殊研究	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。
5	仏教フィールドワーク	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。
6	ソーシャルケア研究	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。
7	医療福祉研究	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。
8	アドミニストレーション研究	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。
9	比較幼児教育研究	2	1		選択	隔年開講科目として計画しているため。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年開講科目の開設については、学生が2年間の就学期間において偏りなく科目履修が行えるように設定した。履修する順序が変わることにより、学修内容に影響がないように対象科目の選定は行えている。学生へは、年度当初のガイダンスにおいて周知し、不利益とならないように配慮している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{9}{79} = \boxed{11.39}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	名古屋音楽大学、名古屋造形大学と共用 数値の見直し、修正を行ったため（令和2年度）		
	校舎敷地	299㎡	16,213㎡	44,133㎡	60,645㎡			
	運動場用地	0㎡	71,779㎡ 71,780㎡	0㎡	71,779㎡ 71,780㎡			
	小 計	299㎡	87,992㎡ 87,993㎡	44,133㎡	132,424㎡ 132,425㎡			
	そ の 他	0㎡	0㎡	6,615㎡	6,615㎡			
	合 計	299㎡	87,992㎡ 87,993㎡	50,748㎡	139,039㎡ 139,040㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	名古屋音楽大学と共用			
	10,531㎡ (10,531㎡)	9,360㎡ (9,360㎡)	12,037㎡ (12,037㎡)	31,928㎡ (31,928㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体数		
	16室	15室	6室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	仏教人間学専攻		15 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を含む
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	仏教人間学専攻	138,500 [19,850] (136,507 [19,521])	1,200 [46] (1,101 [42])	26 [26] (24 [24])	1900 (1,796)	110 (100)	0 (0)	
	計	138,500 [19,850] (136,507 [19,521])	1,200 [46] (1,101 [42])	26 [26] (24 [24])	1900 (1,796)	110 (100)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
	2,839.98㎡		295	264100				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				体育館については、同一学園内の高校及び名古屋造形大学（小牧キャンパス）のものを使用	
	0㎡		卓 球 場（善友館） 多 目 的 室（善友館）					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	第1～2年次は前期課程、第3～5年次は後期課程 第3年次納付金は、本大学院前期課程修了生は入学金190千円を除く
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	300千円	300千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	600千円	300千円	300千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		890千円	700千円	890千円	700千円	700千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	同朋大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
文学部											
仏教学科	4	10		60	学士(文学)	1.12	1.30		昭和25		愛知県名古屋市 中村区稲葉地町 7丁目1番地
人文学科	4	60		220	学士(文学)	1.29	1.17		昭和39		
社会福祉学部			3年次								
社会福祉学科	4	190	10	780	学士(社会福祉)	1.08	1.23		昭和36		
人間学研究科											
仏教人間学専攻	2	13		26	修士(文学)	0.69	0.69	-	令和2		
					修士(人間福祉)						
					修士(心理学)						
文学研究科	3	2		6	博士(文学)	1.50	1.50	-	令和2		
仏教文化専攻	2	5		10	修士(文学)	-	-		平成15	※令和元年度より学生募集停止(文学研究科)	
	3	2		6	博士(文学)	-	-		平成17		
人間福祉研究科											
人間福祉専攻	2	4		8	修士(人間福祉)	-	-		平成16	※令和元年度より学生募集停止(人間福祉研究科)	
臨床心理学専攻	2	4		8	修士(心理学)	-	-		平成27		
別科 仏教専修	1	30		30	-				昭和61		
大学の名称	名古屋音楽大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
音楽学部											
音楽学科	4	120		480	学士(音楽)	0.97	1.06		昭和51		愛知県名古屋市 中村区稲葉地町 7丁目1番地
音楽研究科											
器楽専攻	2	9		18	修士(音楽)	1.38	1.11		昭和62		
声楽専攻	2	5		10	修士(音楽)	0.70	0.80		昭和62		
作曲専攻	2	2		4	修士(音楽)	1.25	1.50		昭和62		
音楽教育学専攻	2	2		4	修士(音楽)	0.25	0.50		昭和62		
大学の名称	名古屋造形大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
造形学部											
造形学科	4	240		960	学士(造形)	1.03	1.24		平成2		愛知県小牧市大 草年上坂6004番 地
造形研究科											
造形専攻	2	10		20	修士(造形)	1.20	1.10		平成15		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<人間学研究科仏教人間学専攻 (M) >

(1) -①担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	蒲池 勢至 () <令和2年4月> 博士(文学)
		特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	教授	福田 琢 () <令和2年4月> 文学修士
		仏教人間学研究Ⅰ 仏教人間学研究Ⅱ 仏教学研究 海外文化研修 仏教学特殊研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	教授	安藤 弥 () <令和2年4月> 博士(文学)
		仏教人間学研究Ⅰ 仏教人間学研究Ⅱ 仏教史研究 日本文化史研究 仏教フィールドワーク 真宗文化特論
専	教授	小島 恵昭 () <令和2年4月> 文学修士
		仏教社会福祉研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	蒲池 勢至 () <令和2年4月> 博士(文学)
		特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	教授	福田 琢 () <令和2年4月> 文学修士
		仏教人間学研究Ⅰ 仏教人間学研究Ⅱ 仏教学研究 海外文化研修 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	教授	安藤 弥 () <令和2年4月> 博士(文学)
		仏教人間学研究Ⅰ 仏教人間学研究Ⅱ 仏教史研究 日本文化史研究 仏教フィールドワーク 真宗文化特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大住 誠 () <令和2年4月> 博士(医学)
		仏教カウンセリング 精神医学研究 心理学基礎研究 臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理面接特論Ⅰ 臨床心理査定演習Ⅱ 臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ
専	教授	林 博幸 () <令和2年4月> 社会学修士
		社会福祉政策論研究 地域福祉研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	教授	目黒 達哉 () <令和2年4月> 博士(心理学)
		福祉・心理総合支援演習 保育心理研究 保育心理事例研究 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ 学校臨床心理学特論 臨床心理地域援助特論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ
専	教授	井上 薫 () <令和2年4月> 文学修士
		児童福祉臨床研究 地域子育て支援研究 家族心理学特論 臨床心理関連行政論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大住 誠 () <令和2年4月> 博士(医学)
		仏教カウンセリング 精神医学研究 心理学基礎研究 臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理面接特論Ⅰ 臨床心理査定演習Ⅱ 臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ 心理学研究法特論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ
専	教授	林 博幸 () <令和2年4月> 社会学修士
		社会福祉政策論研究 地域福祉研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	教授	目黒 達哉 () <令和2年4月> 博士(心理学)
		福祉・心理総合支援演習 保育心理研究 保育心理事例研究 臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ 学校臨床心理学特論 臨床心理地域援助特論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ
専	教授	井上 薫 () <令和2年4月> 文学修士
		児童福祉臨床研究 地域子育て支援研究 家族心理学特論 臨床心理関連行政論 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 心理学特殊演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小沢 日美子 () <令和2年4月> 修士(心理学)
		臨床心理面接特論Ⅱ 発達心理学特論 教育心理学特論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ
専	教授	園田 博文 () <令和2年4月> 博士(文学)
		仏教文学研究 典籍文化研究
専	教授	下山 久之 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	准教授	伊東 恵深 () <令和2年4月> 博士(文学)
		真宗学研究 真宗学特殊研究
専	准教授	石牧 良浩 () <令和2年4月> 博士(文学)
		福祉・心理総合支援演習 福祉研究法 ストレスマネジメント研究 臨床心理査定演習Ⅰ 臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ 投映法特論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	園田 博文 () <令和2年4月> 博士(文学)
		典籍文化研究
専	教授	下山 久之 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	教授	織田 顕祐 () <令和2年4月> 博士(文学)
		仏教文学研究 仏教学特殊研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	教授	北島 信子 () <令和2年4月> 教育学修士
		保育学研究
専	准教授	石牧 良浩 () <令和2年4月> 博士(文学)
		臨床心理査定演習Ⅰ 臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ 投映法特論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	岩瀬 真寿美 () <令和2年4月> 博士(教育学)
		教育学研究 教育哲学研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	准教授	朝見 則史 () <令和2年4月> 博士(心理学)
		心理学研究法特論 臨床心理学研究法特論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ
専	講師	波田 千賀子 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		福祉・心理総合支援演習 福祉研究法 ソーシャルケア研究 レジデンシャルソーシャルワーク研究 アドミニストレーション研究 スーパービジョン研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
兼任	教授	田代 俊孝 () <令和2年4月> 博士(文学)
		生命倫理学研究
兼任	教授	北畠 知量 () <令和2年4月> 博士(教育学)
		仏教人間学研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	岩瀬 真寿美 () <令和2年4月> 博士(教育学)
		教育学研究 教育哲学研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	准教授	朝見 則史 () <令和2年4月> 博士(心理学)
		ストレスマネジメント研究 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理面接特論Ⅱ 臨床心理学研究法特論 心理学特殊演習Ⅰ 心理学特殊演習Ⅱ
専	准教授	波田 千賀子 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		福祉研究法 ソーシャルケア研究 レジデンシャルソーシャルワーク研究 アドミニストレーション研究 スーパービジョン研究 特殊演習Ⅰ 特殊演習Ⅱ 特殊演習Ⅲ 特殊演習Ⅳ
専	講師	林 祐介 () <令和3年4月> 博士(社会福祉学)
		医療福祉研究
兼任	教授	田代 俊孝 () <令和2年4月> 博士(文学)
		真宗学研究 真宗学特殊研究 生命倫理学研究
兼任	教授	北畠 知量 () <令和2年4月> 博士(教育学)
		仏教社会福祉研究 教育心理学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野口 定久 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		比較福祉研究
兼任	教授	野口 典子 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		クオリティマネジメント研究
兼任	教授	田畑 治 () <令和2年4月> 教育学博士
		心理療法特論
兼任	教授	片山 和男 () <令和2年4月> 文学修士
		心の健康教育に関する理論と実践 臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ
兼任	教授	芝垣 正光 () <令和2年4月> 医学博士
		神経生理学特論 障害者(児)心理学特論
兼任	教授	伊東 真理子 () <令和2年4月> 博士(経済学)
		サクセスフル・エイジング研究 老年心理学特論
兼任	講師	坂井 祐円 () <令和2年4月> 博士(教育学)
		実践仏教
兼任	講師	安井 理夫 () <令和2年4月> 博士(臨床福祉学)
		社会福祉方法論研究 精神保健福祉研究
兼任	講師	小川 英彦 () <令和2年4月> 教育学博士
		社会福祉方法論研究 保育学研究 比較幼児教育研究 障害者福祉研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野口 定久 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		比較福祉研究
兼任	教授	野口 典子 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		クオリティマネジメント研究
兼任	教授	田畑 治 () <令和2年4月> 教育学博士
		心理療法特論
兼任	教授	片山 和男 () <令和2年4月> 文学修士
		心の健康教育に関する理論と実践
兼任	教授	芝垣 正光 () <令和2年4月> 医学博士
		発達心理学特論 神経生理学特論 障害者(児)心理学特論
兼任	教授	伊東 真理子 () <令和2年4月> 博士(経済学)
		サクセスフル・エイジング研究 老年心理学特論
兼任	講師	坂井 祐円 () <令和2年4月> 博士(教育学)
		実践仏教
兼任	講師	安井 理夫 () <令和2年4月> 博士(臨床福祉学)
		社会福祉方法論研究 精神保健福祉研究
兼任	講師	小川 英彦 () <令和2年4月> 教育学博士
		比較幼児教育研究 障害者福祉研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	中條 敦仁 () <令和2年4月> 博士(文学)
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開
兼任	講師	目代 貴士 () <令和2年4月> 修士(教育学)
		臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ
兼任	講師	小島 あかね () <令和2年4月> 修士(人間環境学)
		臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ
兼任	講師	柳澤 博紀 () <令和2年4月> 修士(心理学)
		臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ
兼任	講師	高野 美千代 () <令和2年4月> 修士(心理学)
		臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ
兼任	講師	加藤 誠之 () <令和2年4月> 博士(教育学)
		犯罪心理学特論
兼任	講師	西脇 純 () <令和2年4月> 博士(神学)
		宗教学研究 世界宗教文化研究 キリスト教神学研究
兼任	講師	金 圓景 () <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		医療福祉研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	中條 敦仁 () <令和2年4月> 博士(文学)
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開
兼任	講師	目代 貴士 () <令和2年4月> 修士(教育学)
		臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ
兼任	講師	小島 あかね () <令和2年4月> 修士(人間環境学)
		臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ
兼任	講師	柳澤 博紀 () <令和2年4月> 修士(心理学)
		臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ
兼任	講師	高野 美千代 () <令和2年4月> 修士(心理学)
		臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ
兼任	講師	加藤 誠之 () <令和2年4月> 博士(教育学)
		犯罪心理学特論
兼任	講師	西脇 純 () <令和2年4月> 博士(神学)
		宗教学研究 世界宗教文化研究 キリスト教神学研究
兼任	講師	

専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	森田 智美 () <令和2年4月> 修士(臨床心理学)
		臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任, 兼任教員を含む。)を黒字
 - その上で, 認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は, それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼担、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・小島 恵昭教授、伊東 恵深准教授の就任辞退により、織田 顕祐教授に変更
- ・小沢 日美子教授の就任辞退により、北島 信子教授に変更
- ・片山 和男兼任講師の一部科目の就任辞退により、森田 智美兼任講師に変更
- ・金 圓景兼任講師の就任辞退により、林 祐介講師に変更（令和3年度より開講）

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **既設で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
3	2	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
11	4	1	0	16	0	11	4	0	0	15	0
(11)	(4)	(1)	(0)	(16)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
9	7	0				11	4	0			
(9)	(7)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
11	4	1	0	16	0	11	4	1	0	16	0
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
11	5	0				11	5	0			
[+2]	[Δ2]					[+2]	[Δ2]				

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	4	4
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況 (C)}}{\text{設置時の計画 (A)}} = \frac{16}{16} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況 (B)}} = \frac{4}{15} = \boxed{26.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況 (C')}}{\text{設置時の計画 (A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	小島 恵昭	R元. 11	選択	仏教社会福祉研究	②	本学を退職したため			
				必修	特殊演習 I	①				
				必修	特殊演習 II	①				
				必修	特殊演習 III	①				
2	教授	小沢 日美子	R2. 1	必修	臨床心理面接特論 II	①	科目担当教員の変更を行ったため			
				選択	発達心理学特論	②				
				選択	教育心理学特論	②				
				必修	心理学特殊演習 I	①				
4	准教授	伊東 恵深	R元. 12	選択	真宗学研究	②	本学を退職したため			
				選択	真宗学特殊研究	②				
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
3	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目
		選択	5	科目	選択	0	科目	選択	5	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	7	科目	計	5	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
3	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目
		選択	5	科目	選択	0	科目	選択	5	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	7	科目	計	5	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計}(D)+(F)}{(2)-(2)\text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{16} = 18.75\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人			必修	0 科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
			選択	0 科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
			自由	0 科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
			計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の交代は、病気等の個人的な理由によるものであり、やむを得ないと考えている。学生にはただちに連絡し、意向を確認した上で開講することとした。新年度のガイダンス等で改めて周知し、学生に不利益とならないように配慮している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(仏教人間学専攻(M)、仏教人間学専攻(D))	届出時に、完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員4名で、その内1名が病気のため令和元年11月末で退職をした。令和2年4月開設に伴って、40歳代の専任教員を1名採用し、年齢に偏りがないように図っている。	現時点で、完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員3名である。令和3年4月には30歳代の専任教員を採用する予定である。完成年度に向けて、学部教員2名を大学院担当として登用し、順次30歳代から50歳代の新規の採用をしていく予定である。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<大学院 人間学研究科 仏教人間学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
変更事項は特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 同朋大学大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 同朋大学大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会：第1回2020年4月30日（専任教員全員参加）</p> <p>c 委員会の審議事項等 遠隔授業の実施について</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・ 授業方法について研究会 大学院における遠隔授業の実施について</p> <p>b 実施方法 ・ 学務部長、情報センター職員より遠隔授業の実施案が提示され、質疑応答を実施した。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 第1回2020年4月30日（専任教員全員）</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 現在取組中で、日々問題点が生じており、その対応に苦慮している。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 2020年7月末から8月初旬にかけて、実施予定である。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 教員に「学生による授業評価アンケートに」結果に伴う自己評価等を記載した報告書の提出を求める予定である。</p>
--

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・令和2年4月に開設し2か月弱の段階なので、来年度令和3年6月1日 公表予定に向けて総括評価・所見を記載する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和2年4月に開設し2か月弱の段階なので、来年度令和3年6月1日 公表予定である。

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行する。
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和3年に評価機関（大学評価機構）の評価を受ける予定である（学内での決定事項）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

同朋大学大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(目的及び設置)

第1条 学校法人同朋学園の建学の理念及び同朋大学大学院の教育理念・教育目標に基づき、教育力向上のための教育方法や研究及び授業改善に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメント(Faculty Development)委員会(以下「FD委員会」という。)を設置する。

(構成)

第2条 FD委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 委員長(学長が兼務する)
- (2) 研究科長
- (3) 学務部長
- (4) 委員長が指名する大学院担当の教職員 4名
- (5) 事務部長

2 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 FD委員会は、必要に応じて関係教職員の出席を求め、意見を聴取することが出来る。

(審議事項)

第3条 FD委員会は、次の事項を審議する。

- (1) ファカルティ・ディベロップメント推進のための企画及び実施に関すること
- (2) ファカルティ・ディベロップメントに関する報告
- (3) その他、委員長の諮問する事項

(運営)

第4条 FD委員長は、委員会を招集し議長となる。

(事務)

第5条 FD委員会の事務担当は、事務部とする。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、学長が行う。

附 則

この規程は、平成27年10月3日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。